

【目的】当院では2012年9月にGE社製 cone beam CT 装置 Innova IGS630、work station AW VS5 を導入した。同システムでは、Innova vision というアプリケーションにより、AW 上の VR 画像を透視画像上に fusion することが可能となったため、複雑な device 操作を必要とする ablation 手技の視覚的補助が行えると考えた。CARTO XP 用の CT 画像を利用した実際の使用経験を報告する。【方法】事前に CARTO XP 用に撮影された CT 画像を利用し、AW で 3D 化処理を行う。ablation 手技時に Innova vision を用いて VR 画像を透視画像に fusion させ、術者の視覚的補助を行った。【結果】VR 画像は C-arm 角度・FPD 距離等のロケーション変化に追従するため、位置情報の設定が必要となる。初めに胸椎などの骨 VR 画像を用いて透視画像とのマッチングを行った。骨 VR 画像を用いることにより、簡便に位置情報設定を行うことができ、患者体動によるズレも手技中に簡単に修正できた。視覚的に device の位置が確認できるため、医師からの評価も高く、現在は CARTO XP 使用手技時に Innova vision を常用している。さらに、CT 画像を VR 化することによって術前・術後シミュレーションも可能となった。【結論】Innova vision による視覚的補助は術者にとって有意義であると考えられる。また、見た目にも理解しやすくなるため、他スタッフの ablation 手技への理解も深まると考えている。Innova vision 利用による手技時間の短縮に期待している。

評価1	評価2	評価3	採否
発表日時 月 日 (第 日)	セッション	会場	時 分～ 時 分

受付番号

演題番号